

海外発注可 納期相談 企画力自信有 コスト相談 オンラインワン技術 メイドインジャパン 試作可小ロット 量産対応



JCSS の認定事業者に認定された『標準室温度校正サービス』と日本の温度標準器として展示されている『定点セル』

山里産業 株式会社

マイナス196度から2000度 までを正確に測定できる 温度センサーメーカー

産業技術総合研究所との
共同開発から生まれた
「標準白金抵抗温度計」



貴金属・卑金属線を用いて低温から超高温までの工業用温度計測に、広く使用されている温度センサー

「温度を正確に伝えることをモットーに、各種温度測定器製造のスペシャリストとして知られるのが山里産業。1955年に温度センサー関連機材の輸入販売会社として創業し、顧客のニーズに応える過程でセンサーメーカーへと成長を遂げてきた。熱電対・測温抵抗体等の温度センサーおよびマイクロヒーターの製造販売、温度校正、校正機器販売と、その事業領域は実に多岐にわたる。同社の製造したセンサーは、製鉄や半導体などの製造現場をはじめ、石油化学や原子力、航空宇宙分野などさまざまな産業シーンで活躍している。「温度センサーは多彩な部品で構成されていますが、当社では細かい部品の製造も自社で一貫して行っています」と則武社長。1994年にはJCSSの認定事業者に選定され、国の研究機関である産業技術総合研究所（産総研）との共同開発にも着手。同社の標準室には共同開発か

ら生まれた標準白金抵抗温度計（SPRT）や校正装置があり、業界トップレベルの精度で温度センサーの品質を管理している。また、同社の開発した『定点セル』は、日本の温度標準器として東京の国立科学博物館にも展示されている。

シース熱電対製造の 自動化ラインを導入し 量産体制を拡充

同社を代表する製品が、マイナス196度から2000度までの温度を正確に測定でき、絶縁性と高耐圧性を併せ持った『シース熱電対』だ。国内2ヶ所、海外3ヶ所の生産拠点をベースに、素材の製造から組み立てまでを行う一貫生産体制を確立。自動化が困難だったといわれた組み立て工程にもいち早く自動化ラインを導入して量産体制を拡充しており、グローバルに事業を展開している。

近年注力しているのが、シース熱電対ケーブルと同じ製法で製造できるマイクロヒーター。このヒーターは産業用プロセスはもちろんのこと、近年脚光をあびている農業用として植物栽培の土壌温度を管理できるエコテックの認証を受けた『ヒートパイプ』を開発し、農業分野に進出、今後の展開にも期待が寄せられている。「航空宇宙、原子力の分野でのシェア拡大をめざし、今後は特殊シースの製造・開発により力を入れていきたいと考えています。また、業界標準といっても過言ではない当社の高い校正技術を活かし、校正事業のさらなる強化にも取り組んでいきます」と則武社長は言う。業界を牽引するトップメーカーとしての誇りを胸に、果敢なチャレンジスピリットで未知なる温度領域へとその歩を進めていく。

Company Profile

山里産業株式会社

住 所 〒569-0835
高槻市三島江1-5-4
T E L 072-678-3846
F A X 072-679-1163
創 業 昭和30年5月27日
資本金 7,000万円
従業員 236名
代表取締役社長 則武 正平

ISO 14001
ISO 9001

関西
22

■主な事業内容

工業用温度センサー（熱電対
測温抵抗体）製造・販売、マイ
クロヒーター製造・販売、温度
校正サービス

■主な取引先

鉄鋼、石油化学、プラント等

<http://www.yamari.co.jp>

他社には
負けない

当社のものづくり
セールスポイント

経済変化の動向をいち早くつかみ
グローバル生産体制の構築をめざします

代表取締役社長 則武 正平 さん



シース熱電対については、国内工場を導入している自動化ラインを海外子会社にも移管し、さらなる生産体制の強化をめざします。温度を管理するスペシャリストとして、さまざまな分野への事業拡大を積極的に模索していきます。